

**令和8年度  
一般選抜（前期日程）**

**看護学科  
小論文**

**問題・出題の意図・採点評価基準**

令和8年2月25日

高知県立大学

問 ひとが生きていくうえで「存在の世話」には、どのような意義があると考えますか。  
以下の文章も参考にして、あなたの考えを800字以内で述べてください。

（配点 200 点）

家庭という場所、そこでひとはいわば無条件で他人の世話を享ける。言うことを聞いたからとか、おりこうさんにしたらとかいった理由や条件なしに、自分がただここにいるという、ただそういう理由だけで世話をしてもらった経験がたいていのひとにはある。こぼしたミルクを拭ってもらい、便で汚れた肛門をふいてもらい、顎や脇の下、指や脚のあいだを丹念に洗ってもらった経験……。そういう「存在の世話」を、いかなる条件や留保もつけずにしてもらった経験が、将来自分がどれほど他人を憎むことになるろうとも、最後のぎりぎりのところでひとへの〈信頼〉を失わないでいさせてくれる。そういう人生への肯定感情がなければ、ひとは苦しみが増積するなかで、最終的に、死なないでいる理由をもちえないだろうと思われる。

<出典：鷺田清一『悲鳴をあげる身体』PHP 研究所、1998年>

<出題の意図>

ひとは「存在の世話」による肯定的感情を基盤として、自分の人生を生きていく。この設問により、「存在の世話」に関する理解力、多面的に捉える能力、自分の意見を論理的に記述する能力をみる。

<採点評価基準>

ひとが生きていくうえでの「存在の世話」の意義として、自分が存在することの価値への気づき、他者も自分と同じく価値ある存在であるという気づきなど、自分の考えが述べられているかを思考力・判断力の観点から評価する。